

# Letter from the Library



～図書館からのお手紙～

太秦中学校図書館 2019.9.6

## 中秋の名月

旧暦の8月15日（今の9月～10月上旬）の夜を十五夜といいます。一年の中で最も月が美しい夜とされています。十五夜の月は「中秋の名月」ともよばれています。昔から、月見だんごやススキ、秋に実る果物や野菜をおそなえして、月をおがみます。どうぞ、夜空を見上げて、月うさぎを探してみてくださいね。

今年の中秋の名月は、9月13日（金）です。



明日の朝にはエベレスト  
がみえるよ。

## 忘れられない月の話

「月」を見ると、いつも思い浮かぶ光景があります。7年ほど前、インドのコルカタ（旧カルカッタ）で滞在していたことがあり、滞在中に、そこで出会った香港の友人と1週間の休みを取って、ダージリンへ行こうという話になったのです。ならば、ヒマラヤ山脈を近くで見られるところまで、トレッキングしよう！と話が進み、2人で何度も計画を練り、必要なものを準備し、コルカタ発の深夜バスで（約12時間ほど）ダージリンへと向かいました。ダージリンでは、紅茶を飲んだり、街を歩いて観光したのち（ダージリンも素晴らしい景色が広がっており、まるで『ハウルの動く城 宮崎駿』の世界でした。）ネパール人の山ガイドさんと荷物をもって下さるポーターの方と待ち合わせをし、そこから、ネパール、ブータンとの国境に位置するヒマラヤ山脈のカンチェンジュンガの峰が望める



『サンダクプー』と呼ばれる標高約3800mの山小屋を目指しました。その道中で、チベット仏教寺院の一つを訪れると、赤い袈裟（けさ）をまとった中学生くらいの子達と先生が、朝食を食べているところでしたが、心よく迎えて下さりました。

慣れない山道では、10分も歩くと息切れ、途中休憩し、進んでいくと、ヤク（ウシの仲間で、標高の高い所にすんでいる）の家族に出むかえられ、ようやく山小屋へとたどり着きました。山小屋のキッチンで（ここでの話もたくさんあるのですが…）夕食をすませ、ロウソクをもって部屋へ戻り、眠る準備をしていたら、トントンとドアを叩く音がしたのでした。一体何だろうと思って出てみると、「はやく、出ておいで！こんな機会はめったにないよ！」とガイドのウットムさん。「こっち、こっち。」と手招きされるままついていくと、なんと、その夜は満月だったようで、フルムーン（満月）の明かりに煌々と照らされたヒマラヤの約8500m級のカンチェンジュンガの峰々が見えるではありませんか！

澄みきった藍色の夜空にくっきりと浮かぶその姿は荘厳（そうごん）で、この世のものとは思えないほど幻想的で、神秘的で、まさに言葉では表現できないとは、こういうことなのかと…。キラキラと満天に散りばめられた美しい星は手が届きそうなほど近くにあり、そんな光景にしばらく見とれていると、自然の偉大さと、地球のすばらしさに感謝の思いがあふれてきました。

そして、ウットムさんは私たちにこう言ったのです。「フルムーン（満月）の次の朝にはエベレストがみえるよ。」と。



## 司書のイチオシ！

9月20日から動物愛護週間です。

動物との関係を考える機会にしてみてください。



『犬部！』片野 ゆか

行き場を失った犬猫を保護して、新しい飼い主を見つける活動をしている獣医学部生のボランティア団体。  
笑いあり、涙あり、感動のノンフィクションストーリーです。